

## 卒業式式辞

本日京都薬科大学を卒業される 406 名の学部の皆さんならびに大学院を修了される 12 名の皆さん、ご卒業ならびに修了誠におめでとうございます。またご父母、ご関係の皆様にも心よりお祝いを申し上げます。学部の皆さんは 6 年間の学びで薬学の基礎から臨床を学ばれ、大学院の皆さんは、新たな学術の進展に寄与する研究を学位論文としてまとめられました。皆さんのこれまでの努力に敬意を表し、あらためてお祝い申し上げます。

大学、大学院を修了された皆さんには、病気あるいは病気になる可能性のある人を広く対象とする様々な役割が期待されています。病院あるいは薬局の臨床現場では、患者さんが必要とする薬の効果と限界を患者さんに理解していただき、服薬管理とともに症状や副作用のモニターを行い、より良い医療に貢献する役割が求められています。企業では、様々な疾患に対する新しい薬のアイデアやシーズを治療薬に結びつける役割や、新薬の効果を客観的に評価する役割が求められます。また、新しい薬の有効性を学術的に検証することや行政面からの支援も重要な任務の一つです。

京都薬科大学における 6 年間の学びは、このような多様な薬剤師の役割を果たすための基礎を作るためのものです。国家試験に合格し薬剤師として様々な形で社会への貢献を始めると同時に、卒業後も新たな学術的知見に対応できる能力を自己研鑽で維持するための基盤となるものです。大学院修了生の皆さんは、学位研究を通して獲得された能力を学術的にさらに昇華させ、広く世界に通用する教育・研究人材となってください。

これからの皆さんの活躍に際して、一つ心にとめておいていただきたいことがあります。大学や大学院では非常に洗練された形での学びが系統的に準備されていました。しかし、これから皆さんが向きあう現実の課題は往々にして単純なものではありません。関係する要因が増え、一筋縄では対応できない課題が出てきます。さらに、その課題の解決に必要な知識がすでに揃っているとは限らないのです。例えば、様々な観点から多様な研究が進められているがんの研究に関して、1926 年のノーベル生理医学賞がデンマークの病理学者ヨハネス・フィビゲル博士に与えられました。ほぼ 100 年前の研究ですが、ネズミに胃癌を起こす線虫を発見した功績が認められたのです。しかし現在では、この寄生虫発癌説は間違いであったとされています。良性の腫瘍が生じたことは事実でしたが、原因は寄生虫以外にあったのです。やむを得ない間違いであったとも言われていますが、がんの原因に関する研究に次のノーベル賞が授与されたのはこの受賞の 40 年後でした。1926 年当時には妥当性があると認められた医学研究が間違いであり、次のがん研究の評価につながるまでに半世紀程度の時間が必要だった

のです。現在ではこのようなことは起こらない、という保証はどこにもありません。現在広く認められている治療法であろうと、新しい発見がいつ出てくるかわからないのです。このような可能性を常に心の片隅に置きつつ、目の前の課題に誠実に取り組んでください。現時点での最適解が見つかるはずです。そして、その後の展開を慎重に追跡してください。これからの社会生活で遭遇する課題に向き合う際には、このような柔軟な思考を心がけてください。

我が国の人口構成の変化と AI 技術の飛躍的進歩に伴い、皆さんが大学に入学された頃には予想もつかなかったデジタル化時代に即した新しいスキルとハートを持った薬剤師が求められています。このような次世代の薬剤師を目指し卒業後も研鑽を続けてください。すぐ目の前の時代は皆さんがリーダーシップをとる時代です。皆さんの輝かしい未来を祈念して私の式辞とします。

令和 6 年 3 月 16 日  
京都薬科大学 学長 赤路健一